2022年度活動概要　　ＥＳＰ（九州・沖縄）研究会

ESP 研究会（九州・沖縄）は会員 18 名、「ESP 教材の開発及び教授法の研究」をテーマに活動しました。

本年度は、第 5 回 JAAL in JACET（日本応用言語学会）学術交流会における SIG 研究発表とともに第 30 回記念研究会を開催することができた。

前者は 12 月 3 日（土）に立命館大学大阪いばらきキャンパスで対面と遠隔のハイブリッドで開催されたが、コロナ禍で中断していた対面の学術交流会で全国の参加者と交流することができた。ポスターセッションでは「教材・学習プログラム開発への ESP アプローチ（ESP Approaches to Materials and Program Development）」というタイトルで、縄田が「航空機操縦訓練生に対する航空英語教材開発」、吉重が「体育大生の ICT を活用した英語発信力育成の試み」、山内と荒木が「日本の昔話（絵本）を活用した小学校（又は幼児）教員養成課程の学生向け英語教材の有効性」を発表した。久しぶりの対面の発表・意見交換は遠隔よりもはるかに盛り上がった。

後者は第 30 回目を迎えたが、3 月 18 日（土）に熊本城ホール会議室で開催した。荒木が「ESP における学習者研究」、縄田が「航空英語リスニング試験における妥当性の検証」、吉重が「ESP における英語の発信力―体育大生の ICT を活用した発表から」、山内が「小学校英語活動におけるに日英両語による自作絵本の読み聞かせ授業の報告」、安浪が「ChatGPT が英語教育・英語学習に与えるインパクト―英語教師はどのように対応すべきか」を発表した。

本研究会は 1 人当たりの発表と質疑の時間が 45 分に設定しているため、発表後の意見交換では参加者からの示唆に富む意見を得ることができるものである。

2022 年度に科学研究費補助金の受給を受けて研究を行っている者は次の通りでした。ヘンスリー（研究代表者）、山本（研究代表者）、荒木（研究代表者）、吉重（研究代表者）の 4 件です。

来年度も引き続き研究会としてのテーマを追求していきたいと考えています。